

1 [リンクⅢ 津田塾大]

解説

$|z_1|=|z_2|=1$ から $|z_1|^2=|z_2|^2=1$ よって $z_1\bar{z}_1=1, z_2\bar{z}_2=1$ ……①
 $|z_1+z_2|=1$ から $|z_1+z_2|^2=1$ すなわち $(z_1+z_2)(\bar{z}_1+\bar{z}_2)=1$
 よって $(z_1+z_2)(\bar{z}_1+\bar{z}_2)=1$ すなわち $z_1\bar{z}_1+z_1\bar{z}_2+z_2\bar{z}_1+z_2\bar{z}_2=1$
 ①から $1+z_1\bar{z}_2+z_2\bar{z}_1=1$ すなわち $z_1\bar{z}_2+z_2\bar{z}_1=-1$
 ゆえに $|z_1-z_2|^2=(z_1-z_2)(\bar{z}_1-\bar{z}_2)=(z_1-z_2)(\bar{z}_1-\bar{z}_2)$
 $=z_1\bar{z}_1-z_1\bar{z}_2-z_2\bar{z}_1+z_2\bar{z}_2=1-(-1)+1=3$
 したがって $|z_1-z_2|=\sqrt{3}$

2 [リンクⅢ 東北学院大]

解説

$z+\frac{1}{z}=\sqrt{2}$ の両辺に z を掛けて整理すると $z^2-\sqrt{2}z+1=0$

これを解くと $z=\frac{\sqrt{2}\pm\sqrt{2}i}{2}$

よって $z=\cos\left(\pm\frac{\pi}{4}\right)+isin\left(\pm\frac{\pi}{4}\right)$ (複号同順)

ここで、 $\theta=\pm\frac{\pi}{4}$ とおくと

$$\begin{aligned} z^{15}+\frac{1}{z^{15}} &= (\cos\theta+isin\theta)^{15}+(\cos\theta+isin\theta)^{-15} \\ &= (\cos 15\theta+isin 15\theta)+(\cos(-15\theta)+isin(-15\theta)) \\ &= 2\cos 15\theta=2\cos\left(\pm\frac{15}{4}\pi\right)=2\cos\frac{15}{4}\pi=2\times\frac{1}{\sqrt{2}}=\sqrt{2} \end{aligned}$$

3 [リンクⅢ 愛媛大]

解説

点 C は、点 A を中心として点 B を $\frac{\pi}{3}$ 回転、または

$-\frac{\pi}{3}$ 回転した点である。

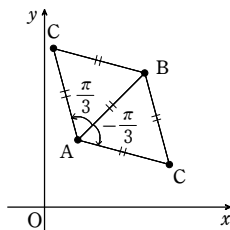
回転角が $\frac{\pi}{3}$ のとき

$$\begin{aligned} z &= \left(\cos\frac{\pi}{3}+isin\frac{\pi}{3}\right)\{(3+4i)-(1+2i)\}+(1+2i) \\ &= \left(\frac{1}{2}+\frac{\sqrt{3}}{2}i\right)(2+2i)+1+2i=2-\sqrt{3}+(3+\sqrt{3})i \end{aligned}$$

回転角が $-\frac{\pi}{3}$ のとき

$$\begin{aligned} z &= \left(\cos\left(-\frac{\pi}{3}\right)+isin\left(-\frac{\pi}{3}\right)\right)\{(3+4i)-(1+2i)\}+(1+2i) \\ &= \left(\frac{1}{2}-\frac{\sqrt{3}}{2}i\right)(2+2i)+1+2i=2+\sqrt{3}+(3-\sqrt{3})i \end{aligned}$$

よって $z=2-\sqrt{3}+(3+\sqrt{3})i, 2+\sqrt{3}+(3-\sqrt{3})i$



4

解説

方程式の両辺を 2 乗すると $|z-1|^2=2^2|z-i|^2$

よって $(z-1)(\bar{z}-1)=4(z-i)(\bar{z}-i)$

すなわち $(z-1)(\bar{z}-1)=4(z-i)(\bar{z}-i)$

両辺を展開して整理すると $z\bar{z}+\frac{1+4i}{3}z+\frac{1-4i}{3}\bar{z}=-1$

式を変形すると $\left(z+\frac{1-4i}{3}\right)\left(\bar{z}+\frac{1+4i}{3}\right)=\frac{8}{9}$

すなわち $\left(z+\frac{1-4i}{3}\right)\left(\bar{z}+\frac{1+4i}{3}\right)=\frac{8}{9}$

ゆえに $\left|z-\frac{-1+4i}{3}\right|^2=\left(\frac{2\sqrt{2}}{3}\right)^2$

したがって $\left|z-\frac{-1+4i}{3}\right|=\frac{2\sqrt{2}}{3}$

これは、点 $\frac{-1+4i}{3}$ を中心とする半径 $\frac{2\sqrt{2}}{3}$ の円である。

【参考】 この円は、2 点 $1, i$ からの距離の比が 2 : 1 である点 z 全体、すなわち、2 点 $1, i$ を 2 : 1 に内分する点と外分する点を直径の両端とする円である (アポロニウスの円)。

5 [リンクⅢ 津田塾大]

解説

$w=\frac{z}{z-\alpha}$ から $(z-\alpha)w=z$ よって $(w-1)z=\alpha w$

$w=1$ は等式を満たさないから、 $w\neq 1$ で $z=\frac{\alpha w}{w-1}$

点 z は原点を中心とする半径 1 の円周上を動くから $|z|=1$

すなわち $\left|\frac{\alpha w}{w-1}\right|=1$ ゆえに $|\alpha||w|=|w-1|$

$|\alpha|=1$ であるから $|w|=|w-1|$

よって、 w の軌跡は 2 点 $0, 1$ を結ぶ線分の垂直二等分線である。

6

解説

B は O と異なるから $\beta\neq 0$

$\alpha^2-2\alpha\beta+2\beta^2=0$ の両辺を $\beta^2(\neq 0)$ で割ると $\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)^2-2\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)+2=0$

これを $\frac{\alpha}{\beta}$ について解くと $\frac{\alpha}{\beta}=1\pm i$

よって $\alpha=(1+i)\beta=\sqrt{2}\left(\cos\frac{\pi}{4}+isin\frac{\pi}{4}\right)\beta$

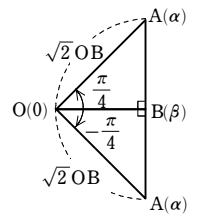
または $\alpha=(1-i)\beta=\sqrt{2}\left(\cos\left(-\frac{\pi}{4}\right)+isin\left(-\frac{\pi}{4}\right)\right)\beta$

したがって、点 A は、点 B を原点を中心として $\frac{\pi}{4}$ または

$-\frac{\pi}{4}$ だけ回転し、原点からの距離を $\sqrt{2}$ 倍に拡大した点で

ある。

よって、 $\triangle OAB$ は辺 OA を斜辺とする直角二等辺三角形である。



7 [リンクⅢ 東北学院大]

解説

$|\alpha|=|\beta|=2$ から $|\alpha|^2=|\beta|^2=4$ よって $\alpha\bar{\alpha}=4, \beta\bar{\beta}=4$ ……①

$|\alpha-\beta|=2$ から $|\alpha-\beta|^2=4$ すなわち $(\alpha-\beta)(\bar{\alpha}-\bar{\beta})=4$

よって $(\alpha-\beta)(\bar{\alpha}-\bar{\beta})=4$ すなわち $\alpha\bar{\alpha}-\alpha\bar{\beta}-\bar{\alpha}\beta+\beta\bar{\beta}=4$

①から $4-\alpha\bar{\beta}-\bar{\alpha}\beta+4=4$ すなわち $\alpha\bar{\beta}+\bar{\alpha}\beta=4$

ゆえに $|\alpha+\beta|^2=(\alpha+\beta)(\bar{\alpha}+\bar{\beta})=(\alpha+\beta)(\bar{\alpha}+\bar{\beta})=\alpha\bar{\alpha}+(\alpha\bar{\beta}+\bar{\alpha}\beta)+\beta\bar{\beta}$
 $=4+4+4=12$

したがって $|\alpha+\beta|=2\sqrt{3}$

8 [リンクⅢ 藤田保健衛生大]

解説

$z+\frac{4}{z}=2$ の両辺に z を掛けて整理すると $z^2-2z+4=0$

これを解くと $z=1\pm\sqrt{3}i$

よって $z=2\left\{\cos\left(\pm\frac{\pi}{3}\right)+isin\left(\pm\frac{\pi}{3}\right)\right\}$ (複号同順)

ここで、 $\theta=\pm\frac{\pi}{3}$ とおくと

$$\begin{aligned} z^{11}+\left(\frac{4}{z}\right)^{11} &= [2(\cos\theta+isin\theta)]^{11}+4^{11}[2(\cos\theta+isin\theta)]^{-11} \\ &= 2^{11}(\cos 11\theta+isin 11\theta)+4^{11}\cdot 2^{-11}[\cos(-11\theta)+isin(-11\theta)] \\ &= 2^{11}(\cos 11\theta+isin 11\theta)+2^{11}(\cos 11\theta-isin 11\theta) \\ &= 2^{11}\cdot 2\cos 11\theta=2^{12}\cos\left(\pm\frac{11}{3}\pi\right)=2^{12}\cos\frac{11}{3}\pi=2^{12}\times\frac{1}{2}=2048 \end{aligned}$$

9 [リンクⅢ 関西大]

解説

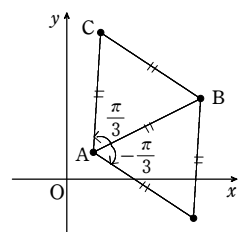
点 C として考えられるのは、点 A を中心として点 B を $\frac{\pi}{3}$ 回転、または $-\frac{\pi}{3}$ 回転した点である。

右の図から、対応する複素数の虚部が最大となるのは、

$\frac{\pi}{3}$ 回転した点である。

よって、求める複素数は

$$\left(\cos\frac{\pi}{3}+isin\frac{\pi}{3}\right)\{(5+3i)-(1+i)\}+(1+i)$$



$$= \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i\right)(4+2i) + 1+i = 3 - \sqrt{3} + (2+2\sqrt{3})i$$

10 [リンクⅢ 神奈川大]

解説

方程式の両辺を2乗すると $|z+3-3i|^2 = 2^2|z-3i|^2$

よって $(z+3-3i)(\bar{z}+3-3i) = 4(z-3i)(\bar{z}-3i)$

すなわち $(z+3-3i)(\bar{z}+3+3i) = 4(z-3i)(\bar{z}+3i)$

両辺を展開して整理すると $z\bar{z} - (1-3i)z - (1+3i)\bar{z} = -6$

式を変形すると $\{z - (1+3i)\}(\bar{z} - (1-3i)) = 4$

すなわち $\{z - (1+3i)\}(\overline{z - (1+3i)}) = 4$ ゆえに $|z - (1+3i)|^2 = 2^2$

したがって $|z - (1+3i)| = 2$

これは、点 $1+3i$ を中心とする半径2の円である。

参考 この円は、2点 $-3+3i$, $3i$ からの距離の比が $2:1$ である点 z 全体、すなわち、2点 $-3+3i$, $3i$ を $2:1$ に内分する点と外分する点を直径の両端とする円である(アポロニウスの円)。

11 [リンクⅢ 名古屋市立大]

解説

$w = \frac{z+i}{z+1}$ から $(z+1)w = z+i$ よって $(w-1)z = -w+i$

$w=1$ は等式を満たさないから、 $w \neq 1$ で $z = \frac{-w+i}{w-1}$

(1) z が虚軸上にあるから $z + \bar{z} = 0$ すなわち $\frac{-w+i}{w-1} + \overline{\left(\frac{-w+i}{w-1}\right)} = 0$

ゆえに $\frac{-w+i}{w-1} + \frac{-\bar{w}-i}{\bar{w}-1} = 0$

よって $(\bar{w}-1)(-w+i) + (w-1)(-\bar{w}-i) = 0$

整理すると $w\bar{w} - \frac{1-i}{2}w - \frac{1+i}{2}\bar{w} = 0$

ゆえに $\left(w - \frac{1+i}{2}\right)\left(\bar{w} - \frac{1-i}{2}\right) = \frac{(1+i)(1-i)}{4}$

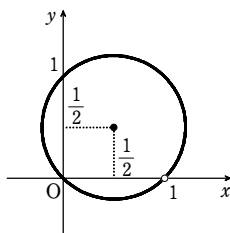
すなわち $\left(w - \frac{1+i}{2}\right)\overline{\left(w - \frac{1+i}{2}\right)} = \frac{1}{2}$ よって $\left|w - \frac{1+i}{2}\right|^2 = \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^2$

ゆえに $\left|w - \frac{1+i}{2}\right| = \frac{1}{\sqrt{2}}$, $w \neq 1$

したがって、点 w の軌跡は点 $\frac{1}{2} + \frac{1}{2}i$ を中心とする

半径 $\frac{1}{\sqrt{2}}$ の円である。

ただし、点 1 を除く。[図]

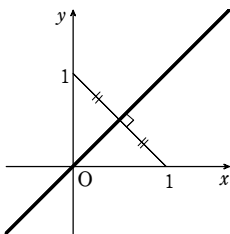


(2) 点 z は原点を中心とする半径1の円周上を動くから

$|z|=1$ すなわち $\left|\frac{-w+i}{w-1}\right|=1$

ゆえに $|w-i|=|w-1|$

よって、 w の軌跡は2点 $1, i$ を結ぶ線分の垂直二等分線である。[図]



12 [リンクⅢ 岐阜大]

解説

$\beta \neq 0$ であるから、 $3\alpha^2 - 6\alpha\beta + 4\beta^2 = 0$ の両辺を β^2 で割ると $3\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)^2 - 6\left(\frac{\alpha}{\beta}\right) + 4 = 0$

これを $\frac{\alpha}{\beta}$ について解くと $\frac{\alpha}{\beta} = \frac{3 \pm \sqrt{3^2 - 3 \cdot 4}}{3} = 1 \pm \frac{\sqrt{3}}{3}i$

よって $\alpha = \left(1 + \frac{\sqrt{3}}{3}i\right)\beta = \frac{2\sqrt{3}}{3}\left(\cos\frac{\pi}{6} + i\sin\frac{\pi}{6}\right)\beta$

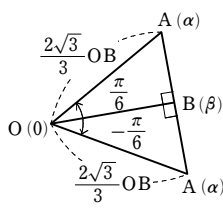
または $\alpha = \left(1 - \frac{\sqrt{3}}{3}i\right)\beta = \frac{2\sqrt{3}}{3}\left(\cos\left(-\frac{\pi}{6}\right) + i\sin\left(-\frac{\pi}{6}\right)\right)\beta$

したがって、点 A は、点 B を原点を中心として $\frac{\pi}{6}$ または

$-\frac{\pi}{6}$ だけ回転し、原点からの距離を $\frac{2\sqrt{3}}{3}$ 倍に拡大した点である。

ゆえに、 $\angle AOB$ の大きさは $\frac{\pi}{6}$

よって、 $\triangle OAB$ は辺 OA を斜辺とし、 $\angle AOB = \frac{\pi}{6}$ であ



る直角三角形であるから、 $\angle OAB$ の大きさは $\frac{\pi}{3}$

13 [リンクⅢ 東京電機大]

解説

$1+i = \sqrt{2}\left(\cos\frac{\pi}{4} + i\sin\frac{\pi}{4}\right)$ であるから

$(1+i)\left(\cos\frac{\pi}{7} + i\sin\frac{\pi}{7}\right) = \sqrt{2}\left(\cos\frac{\pi}{4} + i\sin\frac{\pi}{4}\right)\left(\cos\frac{\pi}{7} + i\sin\frac{\pi}{7}\right)$

$= \sqrt{2}\left[\cos\left(\frac{\pi}{4} + \frac{\pi}{7}\right) + i\sin\left(\frac{\pi}{4} + \frac{\pi}{7}\right)\right]$

$= \sqrt{2}\left(\cos\frac{11\pi}{28} + i\sin\frac{11\pi}{28}\right)$

よって $r = \sqrt{2}$, $\theta = \frac{11\pi}{28}$

14 [リンクⅢ 防衛医科大学校]

解説

$z^2 + \frac{6}{z}$ が実数であるから $z^2 + \frac{6}{z} = \overline{z^2 + \frac{6}{z}}$

すなわち $z^2 + \frac{6}{z} = \bar{z}^2 + \frac{6}{\bar{z}}$ ……①

また、 $z\bar{z} = 9$ であるから $z \neq 0$

よって $\bar{z} = \frac{9}{z}$

これを①に代入すると $z^2 + \frac{6}{z} = \left(\frac{9}{z}\right)^2 + \frac{2z}{3}$

整理すると $3z^4 - 2z^3 + 18z - 243 = 0$

すなわち $(z-3)(z+3)(3z^2 - 2z + 27) = 0$

よって $z = 3, -3, \frac{1 \pm 4\sqrt{5}i}{3}$

これらすべての実部の積は $3 \times (-3) \times \frac{1}{3} \times \frac{1}{3} = -1$

15 [リンクⅢ 岐阜大]

解説

$\alpha + \beta + \gamma = 0$ から $\gamma = -\alpha - \beta$

よって $|\gamma|^2 = |-\alpha - \beta|^2 = (-\alpha - \beta)(\overline{-\alpha - \beta}) = (-\alpha - \beta)(-\bar{\alpha} - \bar{\beta})$
 $= \alpha\bar{\alpha} + \alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta + \beta\bar{\beta}$ ……①

$|\alpha| = |\beta| = |\gamma| = 1$ より $|\alpha|^2 = |\beta|^2 = |\gamma|^2 = 1$ であるから $\alpha\bar{\alpha} = 1, \beta\bar{\beta} = 1, |\gamma|^2 = 1$

これを①に代入すると $\alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta = -1$

したがって $|\alpha - \beta|^2 + |\alpha - \gamma|^2 = |\alpha - \beta|^2 + |\alpha - (-\alpha - \beta)|^2 = |\alpha - \beta|^2 + |2\alpha + \beta|^2$

$= (\alpha - \beta)(\bar{\alpha} - \bar{\beta}) + (2\alpha + \beta)(\overline{2\alpha + \beta})$

$= (\alpha - \beta)(\bar{\alpha} - \bar{\beta}) + (2\alpha + \beta)(2\bar{\alpha} + \bar{\beta})$

$= 5\alpha\bar{\alpha} + \alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta + 2\beta\bar{\beta}$

$= 6$

16 [リンクⅢ 東北学院大]

解説

$z + \frac{1}{z}$ は実数であるから $z + \frac{1}{z} = \overline{z + \frac{1}{z}}$ ($z \neq 0$)

すなわち $z + \frac{1}{z} = \bar{z} + \frac{1}{\bar{z}}$

両辺に $z\bar{z}$ を掛けると $z^2\bar{z} + \bar{z} = z\bar{z}^2 + z$

整理すると $z\bar{z}(z - \bar{z}) - (z - \bar{z}) = 0$

ゆえに $(z\bar{z} - 1)(z - \bar{z}) = 0$

よって $|z|^2 = 1$ または $z = \bar{z}$ ……①

また、 $|z-1|=1$ から $|z-1|^2 = 1^2$

すなわち $(z-1)(\bar{z}-1) = 1$

展開すると $z\bar{z} - z - \bar{z} + 1 = 1$

よって $|z|^2 - (z + \bar{z}) = 0$ ……②

①から、次の2つの場合を考える。

[1] $|z|^2 = 1$ のとき

$z = x + yi$ (x, y は実数) とおくと、②から $1 - ((x+yi) + (x-yi)) = 0$

ゆえに $1 - 2x = 0$ よって $x = \frac{1}{2}$

また、 $|z|^2 = 1$ から $\left(\frac{1}{2}\right)^2 + y^2 = 1$

ゆえに $y^2 = \frac{3}{4}$ よって $y = \pm \frac{\sqrt{3}}{2}$

したがって $z = \frac{1}{2} \pm \frac{\sqrt{3}}{2}i$

[2] $z = \bar{z}$ のとき

z は実数であるから、②より $z^2 - 2z = 0$

よって $z(z-2) = 0$

$z \neq 0$ であるから $z = 2$

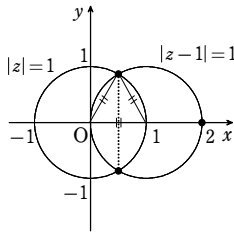
[1], [2]から $z = \frac{1}{2} \pm \frac{\sqrt{3}}{2}i, 2$

【別解】(①までは本解と同様)

①から、 $|z|=1$ または z は実数 ($z \neq 0$) であり、複素数平面上で、 $|z|=1$ は原点 O を中心とする半径 1 の円 $|z|=1$ を表す。

また、 $|z-1|=1$ は点 1 を中心とする半径 1 の円を表す。よって、右の図から

$$z = \frac{1}{2} \pm \frac{\sqrt{3}}{2}i, 2$$



[17] [リンク III 東京都大]

【解説】

ド・モアブルの定理から $z^{14} = (\cos \frac{\pi}{7} + i \sin \frac{\pi}{7})^{14} = \cos 2\pi + i \sin 2\pi = 1$

よって $z^{2017} - z = z^{14 \cdot 144 + 1} - z = (z^{14})^{144} \cdot z - z = 1^{144} \cdot z - z = 0$

[18] [リンク III 大阪工業大]

【解説】

$1+i = \sqrt{2}(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4})$, $-\sqrt{3}+i = 2(\cos \frac{5\pi}{6} + i \sin \frac{5\pi}{6})$ であるから

$$\frac{1+i}{-\sqrt{3}+i} = \frac{\sqrt{2}}{2} \left\{ \cos\left(\frac{\pi}{4} - \frac{5\pi}{6}\right) + i \sin\left(\frac{\pi}{4} - \frac{5\pi}{6}\right) \right\} \\ = \frac{1}{\sqrt{2}} \left\{ \cos\left(-\frac{7\pi}{12}\right) + i \sin\left(-\frac{7\pi}{12}\right) \right\}$$

よって $z = \left(\frac{1+i}{-\sqrt{3}+i}\right)^n = \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n \left\{ \cos\left(-\frac{7\pi}{12}\right) + i \sin\left(-\frac{7\pi}{12}\right) \right\}^n \\ = \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n \left\{ \cos\left(-\frac{7n\pi}{12}\right) + i \sin\left(-\frac{7n\pi}{12}\right) \right\}$

z が実数となるとき $\sin\left(-\frac{7n\pi}{12}\right) = 0$ すなわち $-\frac{7n\pi}{12} = k\pi$ (k は整数)

ゆえに $n = \frac{-12k}{7}$

これを満たす最小の自然数 n は $n = 12$

このとき $z = \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^{12} \left\{ \cos(-7\pi) + i \sin(-7\pi) \right\} = \frac{1}{2^6} \cdot (-1) = -\frac{1}{64}$

[19] [リンク III 福島大]

【解説】

方程式の解 z の極形式を $z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$ ……① とすると

$$z^3 = r^3(\cos 3\theta + i \sin 3\theta)$$

また、 i を極形式で表すと $i = \cos \frac{\pi}{2} + i \sin \frac{\pi}{2}$

よって $r^3(\cos 3\theta + i \sin 3\theta) = \cos \frac{\pi}{2} + i \sin \frac{\pi}{2}$

両辺の絶対値と偏角を比較すると $r^3 = 1$, $3\theta = \frac{\pi}{2} + 2k\pi$ (k は整数)

$r > 0$ であるから $r = 1$ ……②

また $\theta = \frac{\pi}{6} + \frac{2k\pi}{3}$

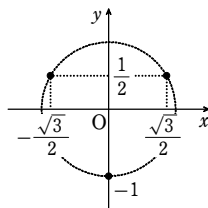
$0 \leq \theta < 2\pi$ の範囲で考えると、 $k = 0, 1, 2$ であるから

$$\theta = \frac{\pi}{6}, \frac{5\pi}{6}, \frac{3\pi}{2} \dots\dots \textcircled{3}$$

②, ③を①に代入すると、求める解は

$$z = \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i, -\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i, -i$$

これらを表す点を図示すると、右の図のようになる。



[20] [リンク III 龍谷大]

【解説】

$z = \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i = \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}$ であるから、ド・モアブルの定理より

$$z^n = \cos \frac{n\pi}{3} + i \sin \frac{n\pi}{3}$$

z^n が実数となるとき $\sin \frac{n\pi}{3} = 0$

よって、 n は 3 の倍数となる。

2 つのさいころを投げて出た目を (a, b) と表すと、 n が 3 の倍数となるのは

$$(1, 2), (2, 1), (1, 5), (2, 4), (3, 3), (4, 2),$$

$$(5, 1), (3, 6), (4, 5), (5, 4), (6, 3), (6, 6)$$

の 12 通り。

よって、求める確率は $\frac{12}{6^2} = \frac{1}{3}$

[21] [リンク III 大阪市立大]

【解説】

(1) ド・モアブルの定理から $z^5 = (\cos \frac{2\pi}{5} + i \sin \frac{2\pi}{5})^5 = \cos 2\pi + i \sin 2\pi = 1$

よって、 $z^5 - 1 = 0$ であるから $(z-1)(z^4 + z^3 + z^2 + z + 1) = 0$

$z \neq 1$ から $z^4 + z^3 + z^2 + z + 1 = 0$

(2) $w^2 = (z + \frac{1}{z})^2 = z^2 + \frac{1}{z^2} + 2$ であるから、(1)より

$$w^2 + w = (z^2 + \frac{1}{z^2} + 2) + z + \frac{1}{z} = \frac{z^4 + z^3 + z^2 + z + 1}{z^2} + 1 = 1$$

(3) $|z|=1$ であるから $|z|^2 = 1$

よって $z\bar{z} = 1$ すなわち $\frac{1}{z} = \bar{z} = \cos \frac{2\pi}{5} - i \sin \frac{2\pi}{5}$

ゆえに $w = z + \frac{1}{z} = 2\cos \frac{2\pi}{5}$

(2)より、 $w = 2\cos \frac{2\pi}{5}$ は方程式 $w^2 + w - 1 = 0$ の解である。

方程式 $w^2 + w - 1 = 0$ を解くと $w = \frac{-1 \pm \sqrt{5}}{2}$

$0 < \frac{2\pi}{5} < \frac{\pi}{2}$ より $\cos \frac{2\pi}{5} > 0$ であるから $2\cos \frac{2\pi}{5} = \frac{-1 + \sqrt{5}}{2}$

したがって $\cos \frac{2\pi}{5} = \frac{-1 + \sqrt{5}}{4}$

(4) 右の図のように単位円に内接する正五角形 ABCDE を考える。

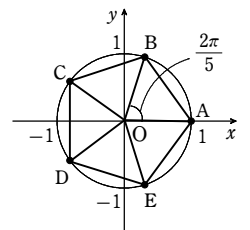
5 つの三角形 $\triangle OAB$, $\triangle OBC$, $\triangle OCD$, $\triangle ODE$,

$\triangle OEA$ は頂角が $\frac{2\pi}{5}$ の二等辺三角形で、これらはすべて合同である。

$0 < \frac{2\pi}{5} < \frac{\pi}{2}$ であるから、(3)より

$$\sin \frac{2\pi}{5} = \sqrt{1 - \cos^2 \frac{2\pi}{5}} = \sqrt{1 - \left(\frac{-1 + \sqrt{5}}{4}\right)^2} \\ = \sqrt{1 - \frac{6 - 2\sqrt{5}}{16}} = \frac{\sqrt{10 + 2\sqrt{5}}}{4}$$

したがって、求める正五角形の面積は $5 \cdot \frac{1}{2} \cdot 1^2 \sin \frac{2\pi}{5} = \frac{5\sqrt{10 + 2\sqrt{5}}}{8}$



[22] [リンク III 藤田保健衛生大]

【解説】

B は O と異なるから $\beta \neq 0$

$\alpha^2 - 3\alpha\beta + 3\beta^2 = 0$ の両辺を $\beta^2 (\neq 0)$ で割ると $\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)^2 - 3\left(\frac{\alpha}{\beta}\right) + 3 = 0$

これを $\frac{\alpha}{\beta}$ について解くと $\frac{\alpha}{\beta} = \frac{3 \pm \sqrt{3}i}{2}$

よって $\alpha = \frac{3 + \sqrt{3}i}{2}\beta = \sqrt{3} \left(\cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right) \beta$

または $\alpha = \frac{3 - \sqrt{3}i}{2}\beta = \sqrt{3} \left(\cos\left(-\frac{\pi}{6}\right) + i \sin\left(-\frac{\pi}{6}\right) \right) \beta$

したがって、点 A は、点 B を原点を中心として $\frac{\pi}{6}$ または

$-\frac{\pi}{6}$ だけ回転し、原点からの距離を $\sqrt{3}$ 倍に拡大した点である。

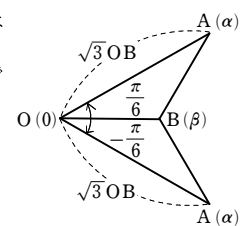
よって $OA = \sqrt{3}OB$, $\angle AOB = \frac{\pi}{6}$

$\triangle OAB$ について余弦定理により

$$AB^2 = (\sqrt{3}OB)^2 + OB^2 - 2(\sqrt{3}OB)OB \cos \frac{\pi}{6} = OB^2$$

よって、 $AB = OB$ であるから、 $\triangle OAB$ は二等辺三角形である。

ゆえに $\angle OAB = \angle AOB = \frac{\pi}{6}$, $\angle OBA = \pi - 2 \times \frac{\pi}{6} = \frac{2\pi}{3}$



23 [リンクIII 神戸大]

解説

- (1) 等式を変形すると $(\alpha - \beta)^3 = -8(\gamma - \beta)^3$
 $\beta \neq \gamma$ であるから $\left(\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta}\right)^3 = -8$
 $\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta} = z$ とおくと $z^3 = -8$ すなわち $z^3 + 8 = 0$
 よって、 $(z + 2)(z^2 - 2z + 4) = 0$ から $z = -2, 1 \pm \sqrt{3}i$
 したがって $\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta} = -2, 1 \pm \sqrt{3}i$
- (2) 3点 A, B, C は同一直線上にないから、 $\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta}$ は実数でない。

よって $\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta} = 1 \pm \sqrt{3}i$

極形式で表すと

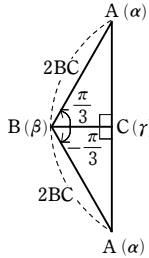
$$\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta} = 2 \left\{ \cos\left(\pm \frac{\pi}{3}\right) + i \sin\left(\pm \frac{\pi}{3}\right) \right\} \quad (\text{複号同順})$$

ゆえに、 $\left|\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta}\right| = 2$ であるから $|\alpha - \beta| = 2|\gamma - \beta|$

すなわち、 $BA = 2BC$ であり $BA : BC = 2 : 1$

また、 $\arg \frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta} = \pm \frac{\pi}{3}$ であるから $\angle ABC = \frac{\pi}{3}$

したがって、 $\triangle ABC$ は $\angle A = \frac{\pi}{6}$ 、 $\angle B = \frac{\pi}{3}$ 、 $\angle C = \frac{\pi}{2}$ の直角三角形である。



24 [リンクIII 慶応義塾大]

解説

$\left|\frac{z-2}{z-1}\right| = 2$ から $|z-2| = 2|z-1|$

ゆえに $PA : PB = 2 : 1$

$|z-2| = 2|z-1|$ の両辺を2乗すると $|z-2|^2 = 4|z-1|^2$

よって $(z-2)(\bar{z}-2) = 4(z-1)(\bar{z}-1)$

すなわち $(z-2)(\bar{z}-2) = 4(z-1)(\bar{z}-1)$

両辺を展開して整理すると $z\bar{z} - \frac{2}{3}z - \frac{2}{3}\bar{z} = 0$

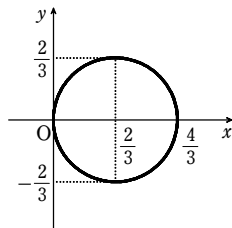
式を変形すると $\left(z - \frac{2}{3}\right)\left(\bar{z} - \frac{2}{3}\right) = \frac{4}{9}$

すなわち $\left(z - \frac{2}{3}\right)\left(\bar{z} - \frac{2}{3}\right) = \frac{4}{9}$

ゆえに $\left|z - \frac{2}{3}\right|^2 = \left(\frac{2}{3}\right)^2$

したがって $\left|z - \frac{2}{3}\right| = \frac{2}{3}$

これは、点 $\frac{2}{3}$ を中心とする半径 $\frac{2}{3}$ の円である。



別解 Pは、線分 AB を 2 : 1 の比に内分する点 C、2 : 1 の比に外分する点 D を直径の両端とする円上にある。

$C\left(\frac{4}{3}\right)$ 、 $D(0)$ であるから、この円の中心は $\frac{2}{3}$ 、半径は $\frac{2}{3}$ である。

よって、その方程式は $\left|z - \frac{2}{3}\right| = \frac{2}{3}$

25 [リンクIII 上智大]

解説

$w = \frac{-z+2i}{2z+i}$ から $(2z+i)w = -z+2i$

よって $(2w+1)z = (2-w)i$

$w = -\frac{1}{2}$ は等式を満たさないから、 $w \neq -\frac{1}{2}$ で $z = \frac{(2-w)i}{2w+1}$

$|z| = 1$ であるから $\left|\frac{(2-w)i}{2w+1}\right| = 1$ ゆえに $|2-w||i| = |2w+1|$

$|i| = 1$ であるから $|2-w| = |2w+1|$

両辺を2乗すると $|2-w|^2 = |2w+1|^2$

よって $(2-w)(\bar{2}-\bar{w}) = (2w+1)(\bar{2}w+1)$

すなわち $(2-w)(2-\bar{w}) = (2w+1)(2\bar{w}+1)$

両辺を展開して整理すると $w\bar{w} + \frac{4}{3}w + \frac{4}{3}\bar{w} = 1$

式を変形すると $\left(w + \frac{4}{3}\right)\left(\bar{w} + \frac{4}{3}\right) = \frac{25}{9}$

すなわち $\left(w + \frac{4}{3}\right)\left(\bar{w} + \frac{4}{3}\right) = \frac{25}{9}$

ゆえに $\left|w + \frac{4}{3}\right|^2 = \left(\frac{5}{3}\right)^2$

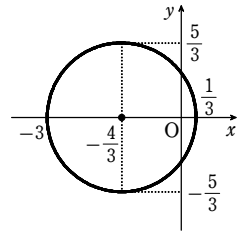
したがって $\left|w + \frac{4}{3}\right| = \frac{5}{3}$

よって、 w を表す点は、点 $-\frac{4}{3}$ を中心とする半径 $\frac{5}{3}$ の円周を動く。

$|w|$ は w を表す点と原点の間の距離であるから、 $|w|$ は

$w = -3$ のとき最大値 3 、 $w = \frac{1}{3}$ のとき最小値 $\frac{1}{3}$

をとる。



26 [リンクIII 北海道大]

解説

(1) $z_2 = \frac{1+\sqrt{3}i}{2}z_1 + 1 = \frac{1+\sqrt{3}i}{2} + 1 = \frac{3+\sqrt{3}i}{2}$

$z_3 = \frac{1+\sqrt{3}i}{2}z_2 + 1 = \frac{1+\sqrt{3}i}{2} \cdot \frac{3+\sqrt{3}i}{2} + 1 = \frac{3+\sqrt{3}i+3\sqrt{3}i-3}{4} + 1 = 1 + \sqrt{3}i$

(2) $z_{n+1} = \frac{1+\sqrt{3}i}{2}z_n + 1 \dots\dots ①$ 、 $z_{n+1} - \alpha = \frac{1+\sqrt{3}i}{2}(z_n - \alpha) \dots\dots ②$ とする。

①-② から $\alpha = \frac{1+\sqrt{3}i}{2}\alpha + 1$

よって $\alpha = \frac{2}{1-\sqrt{3}i} = \frac{1+\sqrt{3}i}{2}$

(3) (2) から $z_{n+1} - \frac{1+\sqrt{3}i}{2} = \frac{1+\sqrt{3}i}{2}\left(z_n - \frac{1+\sqrt{3}i}{2}\right)$

よって $z_n - \frac{1+\sqrt{3}i}{2} = \left(\frac{1+\sqrt{3}i}{2}\right)^{n-1}\left(z_1 - \frac{1+\sqrt{3}i}{2}\right) = \frac{1-\sqrt{3}i}{2}\left(\frac{1+\sqrt{3}i}{2}\right)^{n-1}$

ゆえに $z_n = \frac{1-\sqrt{3}i}{2}\left(\frac{1+\sqrt{3}i}{2}\right)^{n-1} + \frac{1+\sqrt{3}i}{2}$

(4) $-\frac{1-\sqrt{3}i}{2} = \frac{1-\sqrt{3}i}{2}\left(\frac{1+\sqrt{3}i}{2}\right)^{n-1} + \frac{1+\sqrt{3}i}{2}$ とすると

$\frac{1-\sqrt{3}i}{2}\left(\frac{1+\sqrt{3}i}{2}\right)^{n-1} = -1 \dots\dots ③$

$\frac{1-\sqrt{3}i}{2} = \cos\left(-\frac{\pi}{3}\right) + i\sin\left(-\frac{\pi}{3}\right)$ 、 $\frac{1+\sqrt{3}i}{2} = \cos\frac{\pi}{3} + i\sin\frac{\pi}{3}$ であるから

$\frac{1-\sqrt{3}i}{2}\left(\frac{1+\sqrt{3}i}{2}\right)^{n-1} = \cos\left\{-\frac{\pi}{3} + \frac{\pi}{3} \times (n-1)\right\} + i\sin\left\{-\frac{\pi}{3} + \frac{\pi}{3} \times (n-1)\right\}$

また $-1 = \cos\pi + i\sin\pi$

よって、③ から $-\frac{\pi}{3} + \frac{\pi}{3} \times (n-1) = \pi + 2k\pi$ (k は整数)

すなわち $n = 6k + 5$

したがって、求める自然数 n は $n = 6k + 5$ (k は 0 以上の整数)